

対象校No. 749
注4

学校コード F123310106773
注3

設置年度 令和 6年度

計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2
桜花学園大学 国際学部 国際学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人桜花学園
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	学務部教務課
職名・氏名	教務課長 中川 千加子
電話番号	0562-97-5503
(夜間)	0562-97-5503
e-mail	j-kyomu@ohkagakuen-u.ac.jp

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例)
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
- 4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

国際学部

＜国際学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	3
2. 授業科目の概要	7
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	18
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	38

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人 桜花学園

(2) 大 学 名

桜花学園大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒470-1193

愛知県豊明市栄町武侍48

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
 ・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	オオタニ メグム 大 谷 恩 平成17年10月		
学 長	オオタニ タカネ 大 谷 岳 平成29年4月		
学 部 長	ト ウンジン 都 恩珍 令和6年4月		
学科長等	イシワタ マサユキ 石 渡 雅之 令和6年4月		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部・学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の 名称（学位）	学位又は学科 の分野	設 置 時 の 計 画				学生募集の停 止について	備 考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
国際学部 国際学科 学士（国際学）	文学関係	4 年	50 人	2年次 0 人 3年次 5 人 4年次 0 人	210 人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に入力してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分につい て	収容定員 充 足 率	収容定員 充 足 率 (控除後)	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	人 人 (—) [—]	50人 一人 (5) [—]		—	1.06倍	—	
志願者数	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	101 (—) [—] [—]					
受験者数	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	95 (—) [—] [—]					
合格者数	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	81 (—) [—] [—]					
B 入学者数	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	(—) (—) [—] [—]	53 (—) [—] [—]					
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1.06					

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。
(春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。)
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	53 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	53 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
- また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
令和6年度	53 人	0 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
			令和5年度	- 人	- 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

- (注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
 - ・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
 - ・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
 - ・ 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{53} = \boxed{0} \%$$

- (注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<国際学部 国際学科>

(1) ① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単 位 数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担			
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
教養科目 (桜花学)	現代社会と女性	1前		2								1		
	女性とジェンダー	1前		2								1		
	女性と家庭教育	1前		2								1		
	芸術の世界	1前		2								3		
	文学の世界	1前		2								1		
	心の探求	1前		2								1		
	生き方の探求	1前		2								1		
	生活と経済	1後		2								1		
	地域社会	1後		2								1		
	人間と歴史	1後		2								1		
	異文化理解	1後		2								1		
	日本の文化	1後		2		1								
	国際関係論	1後		2								1		
	グローバル社会と宗教	1後		2		1								
	環境の科学	2前		2								1		
	食と生命の科学	2前		2								2		
	生き物の社会	2前		2								1		
	共通教育科目	スポーツ健康論	1後		2									1
		スポーツⅠ	2後		1									2
		スポーツⅡ	2後		1									2
統計学		2後		2									1	
社会調査法		2後		2									1	
情報社会論		2後		2									1	
コンピュータⅠ		1前		1									1	
コンピュータⅡ		1後		1									1	
NGO・NPO論		3前		2									1	
現代社会と企業		3前		2									1	
地域協力演習		3前		2		1							1	
インターンシップ(国内)A		2・3・4 前・後		1		1								
インターンシップ(国内)B		2・3・4 前・後		2		1								
インターンシップ(海外)A		1・2・3・4 前・後		1		1								
インターンシップ(海外)B		1後・2・ 3・4前・ 後		2		1								
インターンシップ(海外)C		3・4前・ 後		3		1								
インターンシップ(海外)D		1後・2・ 3・4前・ 後		4		1								
ボランティア(国内)		1後・2・ 3・4前・ 後		1		1								
ボランティア(海外)		1後・2・ 3・4前・ 後		2		1								
海外英語資格実習		2・3・4 前・後		2		1								
ポルトガル語と文化Ⅰ		1前		1									1	
ポルトガル語と文化Ⅱ		1後		1									1	
スペイン語と文化Ⅰ		1前		1									1	
スペイン語と文化Ⅱ		1後		1									1	
フランス語と文化Ⅰ		1前		1									1	
フランス語と文化Ⅱ		1後		1									1	
中国語と文化Ⅰ		1前		1		1								
中国語と文化Ⅱ		1後		1		1								
中国語と文化Ⅲ		2前		1		1								
中国語と文化Ⅳ		2後		1		1								
韓国語と文化Ⅰ		1前		1									2	
韓国語と文化Ⅱ		1後		1									2	
韓国語と文化Ⅲ	2前		1									1		
韓国語と文化Ⅳ	2後		1									1		
日本国憲法	2後		2									1		
海外研修A	2・3・4 前・後		2		1	1						1		
海外研修B	2・3・4 前・後		4		1	1						1		
基礎演習Ⅰ	1前		1		1	1								
基礎演習Ⅱ	1後		1		1	1								
エクステンション科目	1・2・3・4 前・後		6									4		
小計(56科目)	—	2	98	0	20	4	0	0	0	0	4			

【令和6年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任・ 兼 担	
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
教 養 科 目 （ 桜 花 学 ）	ライフコース論	1前		2							1	
	ジェンダー論	1前		2							1	
	自分と家族	1前		2							1	
	芸術の世界	1前		2							3	
	文学の世界	1前		2							1	
	心の探求	1前		2							1	
	生き方の探求	1前		2							1	
	生活と経済	1後		2							1	
	地域社会	1後		2							1	
	人間と歴史	1後		2							1	
	異文化理解	1後		2							1	
	日本の文化	1後		2		1						
	国際関係論	1後		2							1	
	グローバル社会と宗教	1後		2		1						
	環境の科学	2前		2							1	
	食と生命の科学	2前		2							1	
	生き物の社会	2前		2							1	
	共 通 教 育 科 目	スポーツ健康論	1後		2							1
		スポーツⅠ	2後		1							2
		スポーツⅡ	2後		1							2
		統計学	2後		2							1
		社会調査法	2後		2							1
		情報社会論	2後		2							1
		コンピュータⅠ	1前		1							1
		コンピュータⅡ	1後		1							1
		NGO・NPO論	3前		2							1
		現代社会と企業	3前		2							1
地域協力演習		3前		2		1						
インターンシップ(国内)A		2・3・4 前・後		1		1						
インターンシップ(国内)B		2・3・4 前・後		2		1						
インターンシップ(海外)A		1・2・3・4 前・後		1		1						
インターンシップ(海外)B		1後・2・ 3・4前・ 後		2		1						
インターンシップ(海外)C		3・4前・ 後		3		1						
インターンシップ(海外)D		1後・2・ 3・4前・ 後		4		1						
ボランティア(国内)		1後・2・ 3・4前・ 後		1		1						
ボランティア(海外)		1後・2・ 3・4前・ 後		2		1					2	
海外英語資格実習		2・3・4 前・後		2		1						
ポルトガル語と文化Ⅰ		1前		1							1	
ポルトガル語と文化Ⅱ		1後		1							1	
スペイン語と文化Ⅰ		1前		1							1	
スペイン語と文化Ⅱ		1後		1							1	
フランス語と文化Ⅰ		1前		1							1	
フランス語と文化Ⅱ		1後		1							1	
中国語と文化Ⅰ		1前		1		1						
中国語と文化Ⅱ		1後		1		1						
中国語と文化Ⅲ		2前		1		1						
中国語と文化Ⅳ		2後		1		1						
韓国語と文化Ⅰ		1前		1							2	
韓国語と文化Ⅱ		1後		1							2	
韓国語と文化Ⅲ		2前		1							1	
韓国語と文化Ⅳ		2後		1							1	
日本国憲法		2後		2							1	
海外研修A		2・3・4 前・後		2		1	1				1	
海外研修B	2・3・4 前・後		4		1	1				1		
基礎演習Ⅰ	1前		1			1	1					
基礎演習Ⅱ	1後		1			1	1					
エクステンション科目	1・2・3・4 前・後		6									
	小計(56科目)	—	2	96	0	20	4	0	0	0	47	

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 教育 科目	Grammar for Communication I	1前	1			1	1				
	Grammar for Communication II	1後	1			1	1				
	Speaking I	1前		1		2					
	Speaking II	1後		1		2					
	Writing for Communication I	1前		1						1	
	Writing for Communication II	1後		1						1	
	Reading I	1前		1		1				1	
	Reading II	1後		1		1				1	
	English Phonetics I	1前	2				1				
	English Phonetics II	1後	2				1				
	English Presentation I	2前		1		1				1	
	English Presentation II	2後		1		1				1	
	Communicative English I	2前		1		1				1	
	Communicative English II	2後		1		1				1	
	英語資格講座 IA	1前		1			1				
	英語資格講座 IIA	1後		1			1				
	英語資格講座 IB	1前		1		1					
	英語資格講座 IIB	1後		1		1					
	英語資格講座 IC	1前		1						1	
	英語資格講座 IIC	1後		1						1	
	観光英語A	1前		1			1				
	観光英語B	1後		1			1				
	日本語表現 I	1前	1							1	
	日本語表現 II	1後	1							1	
	日本語表現III	2前	1							1	
	日本語表現IV	2後	1							1	
	基礎ゼミナール I	2前	1			1	1				
	基礎ゼミナール II	2後	1			1	1				
	サステイナブルな社会	1前		2						1	
	日本のポピュラーカルチャー	1前		2						1	
	アニメーション論	1後		2						1	
	時事ニュース(国内) I	2前		2		2	1				
	時事ニュース(外国) II	2後		2		2	1				
	アメリカ文学入門	2前		2		1					
	イギリス文学入門	2後		2			1				
	楽しい古典芸能	2後		2						1	
	キャリアデザイン I	3前		2		1					
	キャリアデザイン II	3後		2		1					
	海外語学実習 I (英語圏)	1後		4		2					
	海外語学実習 I (韓国語)	1後		4		1					
	海外語学実習 I(中国語圏)	1後		4		1					
	海外語学実習 II (英語圏)	2後・3・4 前・後		4		1	1				
	海外語学実習 II (韓国語)	2後・3・4 前・後		4						1	
	海外語学実習 II (中国語圏)	2後・3・4 前・後		4		1					
	小計(44科目)	—	12	62	0	29	14	0	0	0	19

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担
			必修	選択	自由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専門 教育 科目	Grammar for Communication I	1前	1					1			1
	Grammar for Communication II	1後	1					1			1
	Speaking I	1前		1				2			1
	Speaking II	1後		1				2			1
	Writing for Communication I	1前		1							1
	Writing for Communication II	1後		1							1
	Reading I	1前		1			1				2
	Reading II	1後		1			1				2
	English Phonetics I	1前	2					1			1
	English Phonetics II	1後	2					1			1
	English Presentation I	2前		1		1					1
	English Presentation II	2後		1		1					1
	Communicative English I	2前		1		1					1
	Communicative English II	2後		1		1					1
	英語資格講座 IA	1前		1				1			
	英語資格講座 IIA	1後		1				1			
	英語資格講座 IB	1前		1		1					
	英語資格講座 IIB	1後		1		1					
	英語資格講座 IC	1前		1							1
	英語資格講座 IIC	1後		1							1
	観光英語A	1前		1				1			
	観光英語B	1後		1				1			
	日本語表現 I	1前	1								2
	日本語表現 II	1後	1								2
	日本語表現III	2前	1								1
	日本語表現IV	2後	1								1
	基礎ゼミナール I	2前	1				1	1			
	基礎ゼミナール II	2後	1				1	1			
	サステイナブルな社会(未開講)	1前		2							1
	日本のポピュラーカルチャー	1前		2							1
	アニメーション論	1後		2							1
	時事ニュース(国内) I	2前		2			2	1			
	時事ニュース(外国) II	2後		2			2	1			
	アメリカ文学入門	2前		2		1					
	イギリス文学入門	2後		2				1			
	楽しい古典芸能	2後		2							1
	キャリアデザイン I	3前		2			1				
	キャリアデザイン II	3後		2			1				
	海外語学実習 I (英語圏)	1後		4			2				
	海外語学実習 I (韓国語)	1後		4			1				
	海外語学実習 I(中国語圏)	1後		4			1				
	海外語学実習 II (英語圏)	2後・3・4 前・後		4			1	1			
	海外語学実習 II (韓国語)	2後・3・4 前・後		4							1
	海外語学実習 II (中国語圏)	2後・3・4 前・後		4			1				
	小計(44科目)	—	12	62	0	27	14	0	0	0	33

	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
			修	択	由	授	授	師	数	手	
国際・情報専攻	情報リテラシーⅠ	2前	2							1	
	情報リテラシーⅡ	2後	2							1	
	ITスキル応用Ⅰ	3前	1							1	
	ITスキル応用Ⅱ	3後	1							1	
	データサイエンス基礎	3前	2							1	
	コンテンツ制作	3後	2							1	
	中国語検定対策	2前	2		1						
	中国語リスニング&スピーキング	2後	2		1						
	中国語リーディング&ライティング	3前	2		1						
	日中交流史	3後	2		1						
	ビジネス環境とマーケティング	2後	2							1	
	学校文化と英語学習	2前	2		1						
	Advanced WritingⅠ	2前	2							1	
	Advanced WritingⅡ	2後	2							1	
	Business English	2前	2		1						
	Communicative EnglishⅢ	3前	1		1						
	Communicative EnglishⅣ	3後	1		1						
	英語翻訳・通訳	3前	2		1					1	
	Speech & Presentation	3後	1							1	
	British Studies	3前	2			1					
	American Studies	3前	2		1						
	Theory of English Structure	3前	2							1	
	American Literature	3後	2		1						
	British Literature	3後	2			1					
	International Relations	3後	2		1						
	Study Abroad Preparation A	2前	1		1						
	Study Abroad Preparation B	2後	1		1						
日本語教育専攻	多文化社会論	1前	2							1	
	日本語概論	1後	2							1	
	日本語教育概論Ⅰ	2前	2							1	
	日本語教育概論Ⅱ	2後	2							1	
	日英語比較Ⅰ	2前	2							1	
	日英語比較Ⅱ	2後	2							1	
	社会と言語	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅰ	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅱ	3後	2							1	
	言語学	3前	2							1	
	応用言語学	3後	2							1	
	日本語教育演習Ⅰ	4前	2							1	
	日本語教育演習Ⅱ	4後	2							1	
	学校教育インターンシップ	2・3・4前・後	2		1						
	国内日本語教育インターンシップ	4前・後	2		1						
韓国専攻	海外日本語教育インターンシップA	4前・後	2		1						
	海外日本語教育インターンシップB	4前・後	4		1						
	日本語教育ボランティアA	2・3・4前・後	2		1						
	日本語教育ボランティアB	2・3・4前・後	4		1						
	韓国語表現文法	1後	2							1	
	韓国語リスニング&スピーキング	2前	2		1						
	韓国語リーディング&ライティング	2後	2		1					1	
	韓国語コミュニケーション	2前	2		1						
	韓国語プレゼンテーション	2後	2		1						
	韓国語映像翻訳	3前	2							1	
	ビジネス韓国語	3後	2							1	
	韓国事情	1前	2							1	
	韓国サブカルチャー	1後	2							1	
	韓国現代文学	2前	2							1	
	日韓対照言語学	2後	2		1						
観光専攻	韓国の歴史	3前	2							1	
	韓国伝統文化と思想	3後	2							1	
	日韓文化比較	2前	2							1	
	韓国自由研究	2後	2		1						
	韓国インターンシップ	2・3・4前・後	2							1	
	韓国留学準備講座A	2前	2		1						
	韓国留学準備講座B	2後	2		1						
	検定韓国語初級A	1前	1							1	
	検定韓国語中級A	1前	1							1	
	検定韓国語上級A	1前	1							1	
	検定韓国語初級B	1後	1							1	
	検定韓国語中級B	1後	1							1	
	検定韓国語上級B	1後	1							1	
	観光学概論	1後	2		1						
	観光と文化	2後	2		1						
	観光ホスピタリティ	2前	2		1						
観光専攻	観光政策論	3後	2							1	
	観光インターンシップ	2・3・4前・後	2		1						
	観光と地理	1前	2		1						
	エアライン講座	2前	2							1	
	旅行産業論	2後	2		1						
	宿泊産業論	3前	2		1						
	交通産業論	3前	2							1	
	観光マーケティング	3後	2		1						
	観光とソーシャルメディア	3後	2							1	
	祭と文化	2前	2		1						
	観光まちづくり論	3前	2		1						
	地域ブランディング論	3後	2		1						
	観光と社会	2後	2		1						
	地域フィールドワーク	2前	2		1						
	小計(87科目)	—	0	165	0	41	2	0	0	0	47

	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手	
			修	択	由	授	授	師	数	手	
国際・情報専攻	情報リテラシーⅠ	2前	2							1	
	情報リテラシーⅡ	2後	2							1	
	ITスキル応用Ⅰ	3前	1							1	
	ITスキル応用Ⅱ	3後	1							1	
	データサイエンス基礎	3前	2							1	
	コンテンツ制作	3後	2							1	
	中国語検定対策	2前	2		1						
	中国語リスニング&スピーキング	2後	2		1						
	中国語リーディング&ライティング	3前	2		1						
	日中交流史	3後	2		1						
	ビジネス環境とマーケティング	2後	2							1	
	学校文化と英語学習	2前	2		1						
	Advanced WritingⅠ	2前	2							1	
	Advanced WritingⅡ	2後	2							1	
	Business English	2前	2		1						
	Communicative EnglishⅢ	3前	1		1						
	Communicative EnglishⅣ	3後	1		1						
	英語翻訳・通訳	3前	2		1					1	
	Speech & Presentation	3後	1							1	
	British Studies	3前	2			1					
	American Studies	3前	2		1						
	Theory of English Structure	3前	2							1	
	American Literature	3後	2		1						
	British Literature	3後	2			1					
	International Relations	3後	2		1						
	Study Abroad Preparation A	2前	1		1						
	Study Abroad Preparation B	2後	1		1						
日本語教育専攻	多文化社会論	1前	2							1	
	日本語概論	1後	2							1	
	日本語教育概論Ⅰ	2前	2							1	
	日本語教育概論Ⅱ	2後	2							1	
	日英語比較Ⅰ	2前	2							1	
	日英語比較Ⅱ	2後	2							1	
	社会と言語	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅰ	3前	2							1	
	日本語教育法Ⅱ	3後	2							1	
	言語学	3前	2							1	
	応用言語学	3後	2							1	
	日本語教育演習Ⅰ	4前	2							1	
	日本語教育演習Ⅱ	4後	2							1	
	学校教育インターンシップ	2・3・4前・後	2		1						
	国内日本語教育インターンシップ	4前・後	2		1						
韓国専攻	海外日本語教育インターンシップA	4前・後	2		1						
	海外日本語教育インターンシップB	4前・後	4		1						
	日本語教育ボランティアA	2・3・4前・後	2		1						
	日本語教育ボランティアB	2・3・4前・後	4		1						
	韓国語表現文法	1後	2							2	
	韓国語リスニング&スピーキング	2前	2		1						
	韓国語リーディング&ライティング	2後	2		1					1	
	韓国語コミュニケーション	2前	2		1						
	韓国語プレゼンテーション	2後	2		1						
	韓国語映像翻訳	3前	2							1	
	ビジネス韓国語	3後	2							1	
	韓国事情	1前	2							1	
	韓国サブカルチャー	1後	2							1	
	韓国現代文学	2前	2							1	
	日韓対照言語学	2後	2		1						
観光専攻	韓国の歴史	3前	2							1	
	韓国伝統文化と思想	3後	2							1	
	日韓文化比較	2前	2							1	
	韓国自由研究	2後	2		1						
	韓国インターンシップ	2・3・4前・後	2							1	
	韓国留学準備講座A	2前	2		1						
	韓国留学準備講座B	2後	2		1						
	検定韓国語初級A	1前	1							1	
	検定韓国語中級A	1前	1							1	
	検定韓国語上級A	1前	1							1	
	検定韓国語初級B	1後	1							1	
	検定韓国語中級B	1後	1							1	
	検定韓国語上級B	1後	1							1	
	観光学概論	1後	2		1						
	観光と文化	2後	2		1						
	観光ホスピタリティ	2前	2		1						
観光専攻	観光政策論	3後	2							1	

専門教育科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1			8	2					
	専門ゼミナールⅡ	3後	1			8	2					
	専門ゼミナールⅢ	4前	1			8	2					
	専門ゼミナールⅣ	4後	1			8	2					
	卒業研究	4後	4			8	2					
	小計(5科目)	—	8	0	0	40	10	0	0	0	0	0
自由科目	教職入門	1後			2	1						1
	教育原理	1後			2							1
	学習心理学	1後			2							1
	道德教育の指導法	2前			2							1
	生徒・進路指導論	2後			2							1
	特別支援基礎論	3前			1							1
	教育方法・技術論	3前			2							1
	教育相談	3前			2							1
	教育行政・制度論	3後			2							1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2							1
	教育課程論	4後			2							1
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	1						
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	1						
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		1					
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		1					
	教職実践演習Ⅰ(中・高)	4前			1	1						
	教職実践演習Ⅱ(中・高)	4後			1		1					
	教育実習指導	4前			1	1						
	教育実習Ⅰ	4前			4	1						
	教育実習Ⅱ	4前			2	1						
	小計(20科目)	—	0	0	38	7	3	0	0	0	0	10
合計(212科目)		—	20	227	38	119	127	0	20	4		76
卒業要件及び履修方法												
必修科目22単位、専門教育科目(国際学基礎)から(必修科目を含め)40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻(メジャー専攻)、副専攻(マイナー専攻)を選択し、主専攻(メジャー専攻)から30単位以上、副専攻(マイナー専攻)から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))												

専門教育科目	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置						兼任・兼担
			必修	選択	自由	教員	准教員	講師	助教	助手		
ゼミ・卒業研究	専門ゼミナールⅠ	3前	1			8	2					
	専門ゼミナールⅡ	3後	1			8	2					
	専門ゼミナールⅢ	4前	1			8	2					
	専門ゼミナールⅣ	4後	1			8	2					
	卒業研究	4後	4			8	2					
	小計(5科目)	—	8	0	0	40	10	0	0	0	0	0
自由科目	教職入門	1後			2	1						
	教育原理	1後			2							1
	学習心理学	1後			2							1
	道德教育の指導法	2前			2							1
	生徒・進路指導論	2後			2							1
	特別支援基礎論	3前			1							1
	教育方法・技術論(ICT活用含む)	3前			2							1
	教育相談	3前			2							1
	教育行政・制度論	3後			2							1
	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	3後			2							1
	教育課程論	4後			2							1
	英語科教育法Ⅰ	2前			2	1						
	英語科教育法Ⅱ	2後			2	1						
	英語科教育法Ⅲ	3前			2		1					
	英語科教育法Ⅳ	3後			2		1					
	教職実践演習Ⅰ(中・高)	4前			1	1						
	教職実践演習Ⅱ(中・高)	4後			1		1					
	教育実習指導	4前			1	1						
	教育実習Ⅰ	4前			4	1						
	教育実習Ⅱ	4前			2	1						
	小計(20科目)	—	0	0	38	7	3	0	0	0	0	10
合計(212科目)		—	22	323	38	136	33	0	0	0		138
卒業要件及び履修方法												
必修科目22単位、専門教育科目(国際学基礎)から(必修科目を含め)40単位以上、専門教育科目のうち、国際・情報専攻、日本語教育専攻、韓国専攻、観光専攻のいずれかより主専攻(メジャー専攻)、副専攻(マイナー専攻)を選択し、主専攻(メジャー専攻)から30単位以上、副専攻(マイナー専攻)から20単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限:48単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
 - ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務実習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
(例:記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和6年度】(旧)→【令和5年度】(旧)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・大学の共学化（令和6年度入学生より）に伴い、「現代社会と女性」を「ライフコース論」に、「女性とジェンダー」を「ジェンダー論」に、「女性と家庭教育」を「自分と家族」に、科目名変更。
- ・校務の従量を鑑み、「Grammar for Communication I」及び「Grammar for Communication II」の専任教員の配置を「教授1、准教授1」から「准教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「Speaking I」及び「Speaking II」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授2、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「Writing for Communication I」及び「Writing for Communication II」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担3」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「Reading I」及び「Reading II」の専任教員等の配置を「教授1、兼任・兼担1」から「教授1、兼任・兼担2」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「English Phonetics I」及び「English Phonetics II」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・入学者の学力層を鑑み、「日本語表現 I」及び「日本語表現 II」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「韓国語表現文法」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」に変更。
- ・授業担当者の事情により、「韓国事情」の配当時期を1年前期から1年後期に変更。なお、履修系統に支障はない。
- ・授業担当者の事情により、「韓国サブカルチャー」の配当時期を1年後期から1年前期に変更。なお、履修系統に支障はない。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑み、「検定韓国語初級A」の教員の配置を「兼任・兼担1」から「教授1、兼任・兼担1」に変更。
- ・教育職員免許法施行規則の改正に伴い、「教育方法・技術論」を「教育方法・技術論（ICT活用含む）」に科目名変更。

- (注) ・ 2 (1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
17 科目	175 科目	20 科目	212 科目	17 科目	175 科目	20 科目	212 科目	
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{212} = \boxed{0} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容					備考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積8,000㎡以上)と共用 6号館北側駐車場の過 少計上に気づき修正 (6)			
	校 舎 敷 地	㎡	39,310.27 37,344.27㎡	㎡	39,310.27 37,344.27㎡				
	運動場用地	㎡	16,709.88㎡	㎡	16,709.88㎡				
	小 計	㎡	56,020.15 54,054.15㎡	㎡	56,020.15 54,054.15㎡				
	そ の 他	㎡	19,692.94 21,658.94㎡	㎡	19,692.94 21,658.94㎡				
	合 計	㎡	75,713.09㎡	㎡	75,713.09㎡				
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	名古屋短期大学 (必要面積5,650㎡以上)と共用 8号館建築図面と 登記時の誤差により 修正(6)			
		5,159.98㎡ (5,159.98㎡)	14,302.97 14,477.45㎡ -(14,302.97) (14,477.45㎡)	3,406.96㎡ (3,406.96㎡)	22,869.91 23,044.39㎡ -(22,869.91) (23,044.39㎡)				
(3) 教 室 等		講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体		
		54室	73室	4室	3室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)			
(4) 専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		国際学部 国際学科			11 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	学部単位での 特定不能なため、 大学全体の数	
		国際学部国際学科	243,300 [28,150] (239,506 [27,936])	269 [33] (264 [29])	12 [12] (8 [7])	8,600 (8,404)	0 (0)		0 (0)
		計	243,300 [28,150] (239,506 [27,936])	269 [33] (264 [29])	12 [12] (8 [7])	8,600 (8,404)	0 (0)		0 (0)
	(6) 図 書 館		面 積	閱 覧 座 席 数	収 納 可 能 冊 数	大学全体			
		2194.52㎡		320	225,000				
(7) 体 育 館		面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
		2,237.6㎡	テ ニ ス コ ー ト ゴ ル フ 練 習 場						
(8) 経費の見積り及び 維持方法の概要	経費の見 積り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	図書費には電子ジャー ナル・データベースの 整備費(運用コスト含 む)を含む。
		教員1人当り研究費等	450千円	450千円	図書購入費	500千円	500千円	500千円	
		共 同 研 究 費 等	3,500千円	3,500千円	設備購入費	500千円	500千円	500千円	
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
		1,411千円	1,176千円	1,176千円	1,176千円	—	—		
	学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はA-C対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の5月1日現在の数値を記入してください
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称	桜 花 学 園 大 学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又は 称号	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	定員変更 年度 (AC期間 の学科の み)	開設 年度	所在地	備 考			
国際学部	4	50	年次 3 年次 5	210	-	1.06	-	-	令和6	-	令和5年度より学生募集停止			
国際学科	4	50	5	210	学士 (国際学)	1.06	-	-	令和6	愛知県豊明市栄町武待48番地				
学芸学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成21	-				
英語学科	4	-	-	-	学士 (英語)	-	-	-	平成21	愛知県豊明市栄町武待48番地				
保育学部	4	175	5	710	-	0.85	-	-	平成14	-				
保育学科	4	130	2	524	学士 (保育学)	0.96	-	-	平成14	愛知県豊明市栄町武待48番地				
国際教養こども学科	4	45	3	186	学士 (保育学)	0.55	0.54	-	平成30	同上				
大学全体	4	225	3 年次 10	920	-	-	-	-	-	-				

- (注) ・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
- なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 - ・履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
 - ・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5 教員組織の状況

<国際学部 国際学科>

(1) ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	都 恩珍 (54) <令和6年4月> 修士(言語学)
		海外語学実習Ⅰ(韓国語) 国内日本語教育インターンシ ップ 海外日本語教育インターンシ ップA 海外日本語教育インターンシ ップB 日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB 韓国語コミュニケーション 韓国語プレゼンテーション 日韓対照言語学 韓国自由研究 韓国留学準備講座A 韓国留学準備講座B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	石渡 雅之 (51) <令和6年4月> 修士(教育学)
		海外英語資格実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 学校文化と英語学習 学校教育インターンシップ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 教職入門 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教職実践演習Ⅰ(中・高) 教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ

【令和6年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	都 恩珍 (54) <令和6年4月> 修士(言語学)
		海外語学実習Ⅰ(韓国語) 国内日本語教育インターンシ ップ 海外日本語教育インターンシ ップA 海外日本語教育インターンシ ップB 日本語教育ボランティアA 日本語教育ボランティアB 韓国語コミュニケーション 韓国語プレゼンテーション 日韓対照言語学 韓国自由研究 韓国留学準備講座A 韓国留学準備講座B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 検定韓国語初級A
専	教授	石渡 雅之 (51) <令和6年4月> 修士(教育学)
		海外英語資格実習 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 学校文化と英語学習 学校教育インターンシップ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 教職入門 英語科教育法Ⅰ 英語科教育法Ⅱ 教職実践演習Ⅰ(中・高) 教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	根尾 文彦 (68) ＜令和6年4月＞ 学士（経営学）
		地域協力演習 時事ニュース（国内）Ⅰ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 観光と文化 観光インターンシップ 観光と地理 観光まちづくり論 地域フィールドワーク 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	笹生 友広 (58) ＜令和6年4月＞ 学士（歴史学）
		グローバル社会と宗教 インターンシップ（国内）A インターンシップ（国内）B ボランティア（国内） 時事ニュース（国内）Ⅰ 観光学概論 観光ホスピタリティ 旅行産業論 宿泊産業論 観光マーケティング 祭と文化 地域ブランディング論 観光と社会 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	根尾 文彦 (68) ＜令和6年4月＞ 学士（経営学）
		地域協力演習 時事ニュース（国内）Ⅰ キャリアデザインⅠ キャリアデザインⅡ 観光と文化 観光インターンシップ 観光と地理 観光まちづくり論 地域フィールドワーク 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	笹生 友広 (58) ＜令和6年4月＞ 学士（歴史学）
		グローバル社会と宗教 インターンシップ（国内）A インターンシップ（国内）B ボランティア（国内） 時事ニュース（国内）Ⅰ 観光学概論 観光ホスピタリティ 旅行産業論 宿泊産業論 観光マーケティング 祭と文化 地域ブランディング論 観光と社会 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	布 和 (57) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		日本の文化 中国語と文化Ⅰ 中国語と文化Ⅱ 中国語と文化Ⅲ 中国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 時事ニュース（外国）Ⅱ 海外語学実習Ⅰ（中国語圏） 海外語学実習Ⅱ（中国語圏） 中国語検定対策 中国語リスニング&スピーキン グ 中国語リーディング&ライティ ング 日中交流史 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	Shannon Kiyokawa (62) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (豪州)
		ボランティア（海外） SpeakingⅠ SpeakingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Study Abroad Preparation B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	布 和 (57) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		日本の文化 中国語と文化Ⅰ 中国語と文化Ⅱ 中国語と文化Ⅲ 中国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 時事ニュース（外国）Ⅱ 海外語学実習Ⅰ（中国語圏） 海外語学実習Ⅱ（中国語圏） 中国語検定対策 中国語リスニング&スピーキン グ 中国語リーディング&ライティ ング 日中交流史 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	教授	Shannon Kiyokawa (62) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (豪州)
		ボランティア（海外） SpeakingⅠ SpeakingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 海外語学実習Ⅰ（英語圏） Study Abroad Preparation B 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	Donovan Clarke (61) ＜令和6年4月＞ Master of Laws (米国)
		インターンシップ（海外）A インターンシップ（海外）B インターンシップ（海外）C インターンシップ（海外）D Speaking I Speaking II Reading I Reading II 海外語学実習 I（英語圏） Business English Communicative English III Communicative English IV International Relations Study Abroad Preparation A 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究
専	教授	小林 愛明 (46) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		基礎演習 I 基礎演習 II Grammar for Communication I Grammar for Communication II 英語資格講座 IB 英語資格講座 IIB 時事ニュース（外国）II アメリカ文学入門 海外語学実習 II（英語圏） 英語翻訳・通訳 American Studies American Literature 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	教授	Donovan Clarke (61) ＜令和6年4月＞ Master of Laws (米国)
		インターンシップ（海外）A インターンシップ（海外）B インターンシップ（海外）C インターンシップ（海外）D Speaking I Speaking II Reading I Reading II 海外語学実習 I（英語圏） Business English Communicative English III Communicative English IV International Relations Study Abroad Preparation A 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究
専	教授	小林 愛明 (46) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		基礎演習 I 基礎演習 II 英語資格講座 IB 英語資格講座 IIB 時事ニュース（外国）II アメリカ文学入門 海外語学実習 II（英語圏） 英語翻訳・通訳 American Studies American Literature 専門ゼミナール I 専門ゼミナール II 専門ゼミナール III 専門ゼミナール IV 卒業研究

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	井川 恵理 (62) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		海外研修A 海外研修B 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 観光英語A 観光英語B 時事ニュース（外国）Ⅱ イギリス文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） British Studies British Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	准教授	柳田 綾 (46) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (米国)
		Grammar for CommunicationⅠ Grammar for CommunicationⅡ English PhoneticsⅠ English PhoneticsⅡ 英語資格講座ⅠA 英語資格講座ⅡA 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 時事ニュース（国内）Ⅰ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ 教職実践演習Ⅱ（中・高）
兼任	教授	嶋守 さやか (52) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		現代社会と女性 地域社会
兼任	教授	金子 晃之 (62) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		女性と家庭教育

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専	准教授	井川 恵理 (62) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		海外研修A 海外研修B 基礎演習Ⅰ 基礎演習Ⅱ 観光英語A 観光英語B 時事ニュース（外国）Ⅱ イギリス文学入門 海外語学実習Ⅱ（英語圏） British Studies British Literature 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究
専	准教授	柳田 綾 (46) ＜令和6年4月＞ Master of TESOL (米国)
		Grammar for CommunicationⅠ Grammar for CommunicationⅡ English PhoneticsⅠ English PhoneticsⅡ 英語資格講座ⅠA 英語資格講座ⅡA 基礎ゼミナールⅠ 基礎ゼミナールⅡ 時事ニュース（国内）Ⅰ 専門ゼミナールⅠ 専門ゼミナールⅡ 専門ゼミナールⅢ 専門ゼミナールⅣ 卒業研究 英語科教育法Ⅲ 英語科教育法Ⅳ 教職実践演習Ⅱ（中・高）
兼任	教授	嶋守 さやか (52) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		ライフコース論 地域社会 ボランティア（海外）
兼任	教授	金子 晃之 (62) ＜令和6年4月＞ 博士（社会学）
		自分と家族

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	石山 英明 (54) ＜令和6年4月＞ Diplom-Prüfung im Hauptfach Klavier Hochschule der Künste BERLIN (独逸)
		芸術の世界
兼任	准教授	基村 昌代 (53) ＜令和6年4月＞ 修士（芸術）
		芸術の世界
兼任	准教授	田端 智美 (54) ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）
		芸術の世界
兼任	准教授	森山 雅子 (44) ＜令和6年4月＞ 修士（心理学）
		心の探求
兼任	准教授	加藤 あや美 (44) ＜令和6年10月＞ 修士（地域文化学）
		異文化理解
兼任	教授	高橋 一郎 (64) ＜令和6年10月＞ 国際学修士 哲学修士
		国際関係論
兼任	教授	辻岡 和代 (47) ＜令和7年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		食と生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	石山 英明 (54) ＜令和6年4月＞ Diplom-Prüfung im Hauptfach Klavier Hochschule der Künste BERLIN (独逸)
		芸術の世界
兼任	准教授	基村 昌代 (53) ＜令和6年4月＞ 修士（芸術）
		芸術の世界
兼任	准教授	田端 智美 (54) ＜令和6年4月＞ 修士（教育学）
		芸術の世界 ボランティア（海外）
兼任	准教授	森山 雅子 (44) ＜令和6年4月＞ 修士（心理学）
		心の探求
兼任	准教授	加藤 あや美 (44) ＜令和6年10月＞ 修士（地域文化学）
		異文化理解
兼任	教授	高橋 一郎 (64) ＜令和6年10月＞ 国際学修士 哲学修士
		国際関係論
兼任	教授	辻岡 和代 (47) ＜令和7年4月＞ 博士（食品栄養科学）
		食と生命の科学

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	木村 達志 (60) ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		食と生命の科学
兼任	教授	寺田 恭子 (61) ＜令和6年10月＞ 博士（学術）
		スポーツ健康論
兼任	教授	佐久間 潔 (65) ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		情報社会論 コンピュータⅠ コンピュータⅡ
兼任	講師	Rebecca Jackson (51) ＜令和6年4月＞ MA TESOL (英国)
		Writing for CommunicationⅠ Writing for CommunicationⅡ ReadingⅠ ReadingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 英語資格講座ⅠC 英語資格講座ⅡC Advanced WritingⅠ Advanced WritingⅡ Speech & Presentation

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	木村 達志 (59) ＜令和7年4月＞ 博士（保健学）
		食と生命の科学
兼任	教授	寺田 恭子 (60) ＜令和6年10月＞ 博士（学術）
		スポーツ健康論
兼任	教授	佐久間 潔 (65) ＜令和6年4月＞ 修士（工学）
		情報社会論 コンピュータⅠ コンピュータⅡ
兼任	講師	Rebecca Jackson (51) ＜令和6年4月＞ MA TESOL (英国)
		Writing for CommunicationⅠ Writing for CommunicationⅡ ReadingⅠ ReadingⅡ English PresentationⅠ English PresentationⅡ Communicative EnglishⅠ Communicative EnglishⅡ 英語資格講座ⅠC 英語資格講座ⅡC Advanced WritingⅠ Advanced WritingⅡ Speech & Presentation

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金 三淑 (53) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 海外語学実習Ⅱ（韓国語） 韓国語表現文法 韓国語リスニング&スピーキン グ 韓国語リーディング&ライティ ング 韓国現代文学 日韓文化比較 韓国インターンシップ 検定韓国語上級A 検定韓国語上級B
兼任	講師	中村 奈津子 (54) ＜令和6年4月＞ 修士（政策学）
		女性とジェンダー
兼任	講師	太田 昌孝 (64) ＜令和6年4月＞ 博士（人間文化）
		文学の世界
兼任	講師	今福 亮 (30) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		生き方の探求
兼任	講師	茶谷 淳一 (62) ＜令和6年10月＞ 経済学修士
		生活と経済
兼任	講師	小久保 嘉紀 (45) ＜令和6年10月＞ 博士（歴史学）
		人間と歴史

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	金 三淑 (53) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 韓国語と文化Ⅲ 韓国語と文化Ⅳ 海外研修A 海外研修B 海外語学実習Ⅱ（韓国語） 韓国語表現文法 韓国語リスニング&スピーキン グ 韓国語リーディング&ライティ ング 韓国現代文学 日韓文化比較 韓国インターンシップ 検定韓国語上級A 検定韓国語上級B
兼任	講師	中村 奈津子 (54) ＜令和6年4月＞ 修士（政策学）
		ジェンダー論
兼任	講師	太田 昌孝 (64) ＜令和6年4月＞ 博士（人間文化）
		文学の世界
兼任	講師	今福 亮 (30) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		生き方の探求
兼任	講師	茶谷 淳一 (62) ＜令和6年10月＞ 経済学修士
		生活と経済
兼任	講師	小久保 嘉紀 (44) ＜令和6年10月＞ 博士（歴史学）
		人間と歴史

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辻 広志 (61) ＜令和7年4月＞ 博士（理学）
		環境の科学
兼任	講師	上原 隆司 (43) ＜令和7年4月＞ 博士（理学）
		生き物の社会
兼任	講師	鬼頭 茉衣 (28) ＜令和7年10月＞ 修士（スポーツ科学）
		スポーツⅠ
兼任	講師	横井 康博 (56) ＜令和7年10月＞ 修士（体育学）
		スポーツⅠ
兼任	講師	川西 司 (34) ＜令和7年10月＞ 修士（体育学）
		スポーツⅡ
兼任	講師	伊藤 僚 (44) ＜令和7年10月＞ 博士（体育学）
		スポーツⅡ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	辻 広志 (60) ＜令和7年4月＞ 博士（理学）
		環境の科学
兼任	講師	上原 隆司 (42) ＜令和7年4月＞ 博士（理学）
		生き物の社会
兼任	講師	原野 智広 (47) ＜令和6年4月＞ 博士（学術）
		生き物の社会
兼任	講師	鬼頭 茉衣 (27) ＜令和7年10月＞ 修士（スポーツ科学）
		スポーツⅠ
兼任	講師	横井 康博 (55) ＜令和7年10月＞ 修士（体育学）
		スポーツⅠ
兼任	講師	川西 司 (33) ＜令和7年10月＞ 修士（体育学）
		スポーツⅡ
兼任	講師	伊藤 僚 (43) ＜令和7年10月＞ 博士（体育学）
		スポーツⅡ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高瀬 慎二 (43) ＜令和7年10月＞ 博士（心理学）
		統計学
兼任	講師	南 裕一郎 (52) ＜令和7年10月＞ 博士（社会学）
		社会調査法 データーサイエンス基礎
兼任	講師	古藪 真紀子 (55) ＜令和8年4月＞ 修士（国際開発学）
		NGO・NPO論
兼任	講師	塚本 高浩 (33) ＜令和8年4月＞ 博士（経済学）
		現代社会と企業
兼任	講師	富松 エミ (64) ＜令和6年4月＞ 修士（教育）
		ポルトガル語と文化Ⅰ ポルトガル語と文化Ⅱ
兼任	講師	ロンセロス ロサリオ (61) ＜令和6年4月＞ 修士（学術） 修士（工学）
		スペイン語と文化Ⅰ スペイン語と文化Ⅱ
兼任	講師	中島 潤 (51) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		フランス語と文化Ⅰ フランス語と文化Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	高瀬 慎二 (42) ＜令和7年10月＞ 博士（心理学）
		統計学
兼任	講師	南 裕一郎 (51) ＜令和7年10月＞ 博士（社会学）
		社会調査法 データーサイエンス基礎
兼任	講師	古藪 真紀子 (53) ＜令和8年4月＞ 修士（国際開発学）
		NGO・NPO論
兼任	講師	塚本 高浩 (31) ＜令和8年4月＞ 博士（経済学）
		現代社会と企業
兼任	講師	富松 エミ (64) ＜令和6年4月＞ 修士（教育）
		ポルトガル語と文化Ⅰ ポルトガル語と文化Ⅱ
兼任	講師	ロンセロス ロサリオ (61) ＜令和6年4月＞ 修士（学術） 修士（工学）
		スペイン語と文化Ⅰ スペイン語と文化Ⅱ
兼任	講師	中島 潤 (51) ＜令和6年4月＞ 博士（文学）
		フランス語と文化Ⅰ フランス語と文化Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	早野 暁 (55) ＜令和7年10月＞ 修士（法学）
		日本国憲法
兼任	講師	鬼頭 祐太 (28) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ 日本語表現Ⅲ 日本語表現Ⅳ
兼任	講師	韓 丹 (32) ＜令和6年4月＞ 修士（経済学）
		サステナブルな社会 多文化社会論
兼任	講師	西原 麻里 (41) ＜令和6年4月＞ 博士（メディア学）
		日本のポピュラーカルチャー アニメーション論
兼任	講師	三 苦 佳子 (66) ＜令和7年10月＞ 文学修士
		楽しい古典芸能
兼任	講師	高谷 邦彦 (58) ＜令和7年4月＞ 博士（国際広報メディア）
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ コンテンツ制作 観光とソーシャルメディア

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	早野 暁 (54) ＜令和7年10月＞ 修士（法学）
		日本国憲法
兼任	講師	鬼頭 祐太 (28) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		日本語表現Ⅰ 日本語表現Ⅱ 日本語表現Ⅲ 日本語表現Ⅳ
兼任	講師	韓 丹 (32) ＜令和6年4月＞ 修士（経済学）
		サステナブルな社会 多文化社会論
兼任	講師	梶川 瑛里 (31) ＜令和6年4月＞ 修士（文学）
		日本のポピュラーカルチャー アニメーション論
兼任	講師	三 苦 佳子 (65) ＜令和7年10月＞ 文学修士
		楽しい古典芸能
兼任	講師	高谷 邦彦 (57) ＜令和7年4月＞ 博士（国際広報メディア）
		情報リテラシーⅠ 情報リテラシーⅡ コンテンツ制作 観光とソーシャルメディア

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木下 博光 (59) ＜令和8年4月＞ 高等学校卒
		ITスキル応用Ⅰ ITスキル応用Ⅱ
兼任	講師	天池 洋介 (45) ＜令和7年10月＞ 博士（教育）
		ビジネス環境とマーケティング
兼任	講師	笹岡 篤子 (55) ＜令和8年4月＞ 学士（文学）
		英語翻訳・通訳
兼任	講師	村木（守本）恭子 (44) ＜令和8年4月＞ 修士（学術）
		Theory of English Structure 応用言語学
兼任	講師	小出（福田）祥子 (42) ＜令和6年10月＞ 博士（文学）
		日本語概論 言語学
兼任	講師	佐田 明美 (57) ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育法Ⅰ 日本語教育法Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ 日本語教育演習Ⅱ
兼任	講師	大西 美穂 (61) ＜令和7年4月＞ 博士（文学）
		日英語比較Ⅰ 日英語比較Ⅱ

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	木下 博光 (57) ＜令和8年4月＞ 高等学校卒
		ITスキル応用Ⅰ ITスキル応用Ⅱ
兼任	講師	天池 洋介 (44) ＜令和7年10月＞ 博士（教育）
		ビジネス環境とマーケティング
兼任	講師	笹岡 篤子 (53) ＜令和8年4月＞ 学士（文学）
		英語翻訳・通訳
兼任	講師	村木（守本）恭子 (42) ＜令和8年4月＞ 修士（学術）
		Theory of English Structure 応用言語学
兼任	講師	小出（福田）祥子 (41) ＜令和6年10月＞ 博士（文学）
		日本語概論 言語学
兼任	講師	佐田 明美 (56) ＜令和7年4月＞ 修士（人間科学）
		日本語教育概論Ⅰ 日本語教育概論Ⅱ 日本語教育法Ⅰ 日本語教育法Ⅱ 日本語教育演習Ⅰ 日本語教育演習Ⅱ
兼任	講師	大西 美穂 (60) ＜令和7年4月＞ 博士（文学）
		日英語比較Ⅰ 日英語比較Ⅱ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	寺澤 陽美 (59) ＜令和8年4月＞ aster of Arts (米国)
		社会と言語
兼任	講師	李 正子 (53) ＜令和6年4月＞ 修士（文学） (韓国)
		韓国語映像翻訳 韓国サブカルチャー 検定韓国語初級A 検定韓国語初級B
兼任	講師	孫 英愛 (53) ＜令和8年10月＞ 韓国語教育専攻文学士 (韓国)
		ビジネス韓国語
兼任	講師	李 賢珍 (48) ＜令和6年4月＞ 博士（教育学）
		韓国事情
兼任	講師	李 孝心 (62) ＜令和8年4月＞ 修士（日本史）
		韓国の歴史 韓国伝統文化と思想
兼任	講師	金 昭鎭 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（教育学） (韓国)
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 検定韓国語中級A 検定韓国語中級B
兼任	講師	榊原 仁 (67) ＜令和8年4月＞ 修士（法学） 修士（経営学）
		観光政策論 交通産業論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	寺澤 陽美 (56) ＜令和8年4月＞ aster of Arts (米国)
		社会と言語
兼任	講師	李 正子 (53) ＜令和6年4月＞ 修士（文学） (韓国)
		韓国語映像翻訳 韓国サブカルチャー 検定韓国語初級A 検定韓国語初級B
兼任	講師	孫 英愛 (51) ＜令和8年10月＞ 韓国語教育専攻文学士 (韓国)
		ビジネス韓国語
兼任	講師	李 賢珍 (48) ＜令和6年4月＞ 博士（教育学）
		韓国事情
兼任	講師	李 孝心 (60) ＜令和8年4月＞ 修士（日本史）
		韓国の歴史 韓国伝統文化と思想
兼任	講師	金 昭鎭 (55) ＜令和6年4月＞ 修士（教育学） (韓国)
		韓国語と文化Ⅰ 韓国語と文化Ⅱ 検定韓国語中級A 検定韓国語中級B 韓国語表現文法
兼任	講師	榊原 仁 (65) ＜令和8年4月＞ 修士（法学） 修士（経営学）
		観光政策論 交通産業論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	近藤 千恵子 (51) ＜令和7年4月＞ 学士（法学）
		エアライン講座
兼任	講師	首藤 貴子 (50) ＜令和6年10月＞ 修士（教育学）
		教育原理 教育方法・技術論 教育課程論
兼任	講師	木村 洋太 (48) ＜令和6年10月＞ 修士（教育学）
		学習心理学 教育相談
兼任	講師	澤田 好江 (70) ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		道德教育の指導法 生徒・進路指導論 特別活動・総合的な学習の時間 の指導法
兼任	講師	長崎 龍樹 (58) ＜令和8年4月＞ 修士（医療・福祉マネジメント）
		特別支援基礎論
兼任	講師	小柳 雅子 (45) ＜令和8年10月＞ 修士（法律学）
		教育行政・制度論

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	近藤 千恵子 (50) ＜令和7年4月＞ 学士（法学）
		エアライン講座
兼任	講師	首藤 貴子 (50) ＜令和6年10月＞ 修士（教育学）
		教育原理 教育方法・技術論（ICT活用含む） 教育課程論
兼任	講師	木村 洋太 (47) ＜令和6年10月＞ 修士（教育学）
		学習心理学 教育相談
兼任	講師	澤田 好江 (69) ＜令和7年4月＞ 修士（教育学）
		道德教育の指導法 生徒・進路指導論 特別活動・総合的な学習の時間 の指導法
兼任	講師	長崎 龍樹 (56) ＜令和8年4月＞ 修士（医療・福祉マネジメント）
		特別支援基礎論
兼任	講師	小柳 雅子 (43) ＜令和8年10月＞ 修士（法律学）
		教育行政・制度論
兼任	講師	松岡 佐和美 (45) ＜令和6年4月＞ 修士（英語教育専攻）
		Grammar for Communication I Grammar for Communication II

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏 名 (年 齢) ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	佐分 ジュディス スミス (40) ＜令和6年4月＞ Master of Education (米国)
		Speaking I Speaking II
兼任	講師	Senga Melissa (63) ＜令和6年4月＞ Master in TESOL (豪州)
		Writing for Communication I Writing for Communication II Reading I Reading II
兼任	講師	Ogura Fleur Danielle (42) ＜令和6年4月＞ Master in TESOL (英国)
		Writing for Communication I Writing for Communication II
兼任	講師	三浦（志賀）紀美代 (45) ＜令和6年4月＞ 修士（学術） Master of Arts (英国)
		English Phonetics I English Phonetics II
兼任	講師	浅岡 悦子 (37) ＜令和6年4月＞ 博士（人間文化）
		日本語表現 I 日本語表現 II

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号（その2の1）に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には設置認可時又は届出時の教員全て（兼任、兼任教員を含む。）を黒字で記入してください。
- その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラムの授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

(1) 一②担当教員表に関する変更内容

【令和6年度】

- ・上原隆司兼任講師辞退により、原野智広兼任講師就任。
- ・学修機会の拡大を鑑み、「ボランティア（海外）」担当者として鳴守さやか兼任講師、田端智美兼任講師を追加。
- ・入学者の履修希望、学修支援・教育指導の充実を鑑み、金三淑兼任講師を兼任講師として採用。
- ・入学者の履修希望を鑑みたクラス増により、「韓国語表現文法」担当者として金昭鎭兼任講師を追加。
- ・西原麻里兼任講師辞退により、梶川瑛里兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により松岡佐和美兼任講師、佐分ジュディスミス兼任講師、Senga Combley Melissa兼任講師、Ogura Fleur Danielle兼任講師、三浦（志賀）紀美代兼任講師、浅岡悦子兼任講師就任。
- ・入学者の学力層及び履修者数を鑑みたクラス増により都恩珍専任教授を同科目担当者として追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。**原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ませ**
 - ・ ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(注) ・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数」及び「(2) - ② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
8 名	4 名

(注) ・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。
・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	助手 (A')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)	助手 (B')
8	2	0	0	10	0	8	2	0	0	10	0
(8)	(2)	(0)	(0)	(10)	(0)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	助手 (C')	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)	助手 (D')
8	2	0	0	10	0	8	2	0	0	10	0
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	1 名	1 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{10}{10} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{1}{10} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{0}{0} = \boxed{-} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
		該当なし											
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由						
		該当なし											
合 計（F）					後任補充状況の集計（G）								
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）			
〇〇	人	必修	#VALUE!	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目	必修	〇〇	科目
		選択	#VALUE!	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目	選択	〇〇	科目
		自由	#VALUE!	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目	自由	〇〇	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について、記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合 計 (D) + (F)					後任補充状況の集計 (E) + (G)				
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)				①の合計数 (a)	②の合計数 (b)		③の合計数 (c)
#VALUE!	人	必修	#VALUE!	科目	必修	#####	科目	必修	#####
		選択	#VALUE!	科目	選択	#####	科目	選択	#####
		自由	#VALUE!	科目	自由	#####	科目	自由	#####
		計	#VALUE!	科目	計	#####	科目	計	#####

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{\#VALUE!}{\#VALUE!} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 令和5年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

該当なし 人

- (注) ・ (3) - ①、(3) - ②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
- ・ 令和6年度開設の学科等の場合、(D) + (F) と同数を記載してください。

(3) 一⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1	教授	◎◎ ◎◎	必修	○○概論	①	R4. 3. 31付け65歳で定年退職（４）		
			選択	◆◆基礎	②			
			必修	☆☆演習	③			
2	准教授	△△ △△	自由	××語	②	R5. 3. 31付け65歳で定年退職（５）		
			必修	▲▲実習	③			
			必修	◇◇特論	①			
合計					後任補充状況の集計			
辞任した教員数			担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）	
○○	人		必修	#VALUE! 科目	必修	○○ 科目	必修	○○ 科目
			選択	#VALUE! 科目	選択	○○ 科目	選択	○○ 科目
			自由	#VALUE! 科目	自由	○○ 科目	自由	○○ 科目
			計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

(注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について、記入してください。

- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
届 出 時 (令和6年)	・保育学部国際教養こども学科の収容定員未充足の是正に努めること。 【届出】 遵守事項	本学科は、2018年度の設置以来3年間は定員を充足したが、その後コロナ禍の影響で定員未充足状態が続いている。コロナ禍には、学科の特徴であるニュージーランドとオーストラリアへの留学プログラムが滞ったが、両プログラムも2023年度からは正常化しており、国内での学びと留学中の学修内容の連続性を向上させている。入学者も2022年度に底を打ち、増加傾向の基調にあると言える。また、キャンパス将来構想に沿って、併設する名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプの募集停止に伴う編入生受入のため、同短大からの編入の教務上のスムーズな移行について整理し、編入希望者への広報を行っている。(6)	2020年度入学生をピークに他府県からの入学者割合が減っていることを受けて、学科の全国的な認知度を高めるための方策として学科リーフレットの送付や出張講義の案内など、多角的な広報に努めている。また、在籍生の満足度を高めHPやSNSで学科の魅力を発信し、学科のユニーク且つ未来を見据えた保育者養成における教育内容を積極的に広報することにより、定員充足を図る。さらに、名古屋短期大学専攻科保育専攻留学タイプの募集停止に伴う編入生受入のため、これまで入学の指定校依頼をしていた学校に対しての編入説明会を行う予定である。 (6)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「(5)(6)」と記載してください。

【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「(6)」と記載してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<国際学部 国際学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①学則変更 変更部分は次のとおりである。 (大学の目的変更に伴う改正) 第1条 桜花学園大学（以下「本学」という。）は、<u>教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、</u>（以下略） 第10条 本学に入学志願できる者は、<u>女子であって、次の各号の一に該当する者</u>でなければならない。（以下略） (共学化に伴う「桜花学」の変更) ※別表第1及び別表第3のうち、次の科目（全学共通教育科目）の名称変更 現代社会と女性 女性とジェンダー 女性と家庭教育 (入学手続書類の変更及び編入学の定義をわかりやすくするための変更) 第13条 合格した者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書及び住民票に入学金を添えて提出しなければならない。 第15条 次の各号の一に該当する者で本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は3年次に入学を許可することができる。 (1) (略) (2) <u>因学を卒業した者又は大学に2年以上在籍し、62単位以上を修得した者</u> (3)～(4)及び第2項 (略) (教育職員免許法施行規則の改正に伴う科目名の変更) ※別表第1及び別表第2のうち、次の科目（国際学部国際学科の専門教育科目）の名称変更 教育方法・技術論 (教育職員免許法施行規則の改正に伴う科目区分の追加) ※別表第2のうち、次の科目区分（保育学部保育学科の専門教育科目）の追加 (新規) ※別表第2のうち、次の科目区分（国際学部国際学科の自由科目）の名称変更 総合的な学習の時間の指導法 (保育学部保育学科カリキュラム改革に伴う教育課程の変更) ※別表第1及び別表第2の科目の追加・変更・削除（詳細略）	変更部分は左記に対応して次のとおりである。 ※詳細は別紙1参照。 (大学の目的変更に伴う改正) 第1条 桜花学園大学（以下「本学」という。）は、<u>教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、</u>（以下略） 第10条 本学に入学志願できる者は、<u>次の各号の一に該当する者</u>でなければならない。（以下略） (共学化に伴う「桜花学」の変更) ※別表第1及び別表第3のうち、次の科目（全学共通教育科目）の名称変更 ライフコース論 ジェンダー論 自分と家族 (入学手続書類の変更及び編入学の定義をわかりやすくするための変更) 第13条 合格した者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書<u>その他本学所定の書類</u>に入学金を添えて提出しなければならない。 第15条 次の各号の一に該当する者で本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は3年次に入学を許可することができる。 (1) (略) (2) <u>因学を卒業した者又は他の大学に2年以上在籍し、62単位以上を修得した者</u> (3)～(4)及び第2項 (略) (教育職員免許法施行規則の改正に伴う科目名の変更) ※別表第1及び別表第2のうち、次の科目（国際学部国際学科の専門教育科目）の名称変更 教育方法・技術論（ICT活用含む） (教育職員免許法施行規則の改正に伴う科目区分の追加) ※別表第2のうち、次の科目区分（保育学部保育学科の専門教育科目）の追加（詳細略） ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 ※別表第2のうち、次の科目区分（国際学部国際学科の自由科目）の名称変更 総合的な学習（探求）の時間の指導法 (保育学部保育学科カリキュラム改革に伴う教育課程の変更) ※別表第1及び別表第2の科目の追加・変更・削除（詳細略）

②編入学規程の改正 変更部分は次のとおりである。 （出願資格の明確化） 第2条 編入学とは、次の各号の一に該当する者が本学の3年次に入学することをいう。 (1) (略) (2) 大学を卒業した者又は<u>大学に2年以上在籍し、62単位以上修得した者</u> (3) (略) ((4) ～(6) 新規) ③GPA 制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項の改正 変更部分は次のとおりである。 （学則第34条に基づく単位認定制度の創設に係る改正） 第2条 (第1～2項、略) 3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPA の対象から除く。 (1) ～ (8) 略 (9) (新規) 第6条 (第1項、略) 2 自由科目（教職科目）、学外実習科目、集中講義科目は履修登録上限制限に含まない。	変更部分は左記に対応して次のとおりである。 ※詳細は別紙2参照。 （出願資格の明確化） 第2条 編入学とは、次の各号の一に該当する者が本学の3年次に入学することをいう。 (1) (略) (2) 大学を卒業した者又は<u>他の大学に2年以上在籍し、62単位以上修得した者</u> (3) (略) (4) 専修学校の専門課程（修業年限が2年以上、総授業時数が1,700時間以上又は62単位以上であるものに限る）を修了した者 (5) 修業年限が2年以上その他の文部科学大臣が定める基準を満たす高等学校専攻科修了者 (6) その他、前記と同等以上の資格があると本学が認めた者 変更部分は左記に対応して次のとおりである。 ※詳細は別紙3参照。 （学則第34条に基づく単位認定制度の創設に係る改正） 第2条 (第1～2項、第4項、略) 3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPA の対象から除く。 (1) ～ (8) 略 (9) <u>資格・検定取得及び受賞により単位認定された科目</u> 第6条 (第1項、略) 2 自由科目（教職科目）、学外実習科目、集中講義科目、<u>資格・検定取得及び受賞によって単位認定を申請する科目</u>は履修登録上限制限に含まない。
--	---

（注）・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（2）教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

学則第3条に基づき桜花学園大学FD委員会及び国際学部FD委員会を設置している。

※別紙4参照。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

円滑な委員会活動の観点から、桜花学園大学FD委員会と国際学部FD委員会は密接に連携を取りながらFD活動に努める。従って、両委員会は合同開催予定である。

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和5年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の開催状況は次のとおり。

第1回	4月2日	参加教員5名、事務職員1名
第2回	5月24日	参加教員5名、事務職員1名
第3回	6月21日	参加教員4名、事務職員1名
第4回	7月13日	参加教員4名、事務職員1名
第5回	9月13日	参加教員5名、事務職員1名
第6回	10月17日	参加教員5名、事務職員1名
第7回	11月21日	参加教員5名、事務職員1名
第8回	12月12日	参加教員5名、事務職員1名
第9回	2月14日	参加教員5名、事務職員0名
第10回	3月6日	参加教員5名、事務職員1名

c 委員会の審議事項等

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和5年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の審議事項は次のとおり。

- 第1回 FSD研修会について、相互授業参観について、Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）について、中間授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について
- 第2回 FSD研修会について、中間授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について
- 第3回 相互授業参観について、Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）について、FD委員会報告書の作成について
- 第4回 相互授業参観について、中間授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について
- 第5回 相互授業参観について、中間授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について、次年度の活動について
- 第6回 FD委員会報告書の作成について
- 第7回 FD委員会報告書の作成について
- 第8回 相互授業参観について、中間授業アンケートについて
- 第9回 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）について、相互授業参観について、授業アンケートについて、FD委員会報告書の作成について、次年度の活動について
- 第10回 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）について、FD委員会報告書の作成について、次年度の活動について

② 実施状況

国際学部の前身である学芸学部の実績として、令和5年度の桜花学園大学FD委員会及び学芸学部FD委員会の実施状況は次のとおり。

a 実施内容

a-1 FSD研修会

本キャンパスに併設される名古屋短期大学及び事務局と協力し、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を目的とし、キャンパス内の全教職員を受講対象として実施している。

a-2 相互授業参観

学生の学修意欲の向上を促進する教育効果の高い教育実践を教員間で共有し、教授方法の向上に資することを目的とし、全学の専任教員が担当する授業を対象に年間を通して実施する。参観者は参観後に報告書を作成し、授業担当者へフィードバックする。なお、報告書はOhka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）の審査のための資料となる。

a-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

学生の学修意欲の向上を促進する教育効果の高い教育実践を教員間で共有し、教授方法の向上に資することを旨として、【Ohka Good Practice(OGP)】を2022年度にスタートさせ、2023年度は本格的に運用した。評価基準は「A：理解・目標達成（DP）」、「B：意欲・興味・（質問対応）」、「C：環境（学習環境）教材・ICT」と3つ設定し、年度毎に重点テーマを決定する。相互授業参観における評価及び授業アンケートによる評価を資料として選考する。

a-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

中間授業アンケートは、各学期中間段階での学生の反応を確認し、早期に対象学生に合わせた授業を展開できるよう軌道修正することを目的とする。期末授業アンケートは、各学期の総括及び次年度の授業改善への具体的・効果的指針を得ることを目的とする。期末授業アンケート回答集計後には、授業担当者へ授業改善アンケートの提出を求める。

a-5 FD委員会報告書

1年間のFD活動のまとめとして報告書を作成。関係者へ本活動を周知するとともに、今後の活動の改善への足掛かりとする。

b 実施方法

b-1 FSD研修会

年1回以上実施。テーマに関して造詣の深い講師を招聘する講演や、数名のパネラーによる研究討議等にて内容を構成する。

b-2 相互授業参観

前期、後期の冒頭に、教授会にてFD委員長が当該企画について説明、参加を促す。参観者は、参観を希望する授業の担当者へ事前許可を得て参観、後日、報告書を提出する。報告書は授業担当者と共有される。実施状況は各学科で共有され、教授方法の向上とともに参観数の増加を目指す。

b-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

年度ごとに設定される重点テーマ基準に、相互授業参観の報告書による推薦を募る。推薦された授業はFD委員が2次参観もしくは授業者からの聞き取りを行い、授業アンケート結果を含めて選考する。認定された授業担当者は3月に表彰され、簡潔に実践報告をする。なお、該当者に授業改善への貢献を認め、翌年の研究費が3万円増額される。

b-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

対象科目：どちらも、履修者数5名以上の全開講科目
実施時期：各学期中間授業アンケート＝第6回目の授業、各学期期末授業アンケート＝14～15回目の授業
実施方法：どちらも、LMSを利用
集計方法：どちらも、科目・クラスごとに各設問を集計。
※期末授業アンケートについては、学部・学年ごとに各設問の平均を算出し、HPへ経年変化を公開。
開示方法：どちらも、LMSを利用
※なお、授業担当者へ依頼する授業改善アンケートも、LMSを利用して提出。

b-5 FD委員会報告書

4～5月に、前年度の活動実績や課題をまとめ、報告書として発行する。発行月の教授会にて、FD委員長より当該報告書の発行を周知する。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

c-1 FSD研修会

（令和5年度）

テーマ：研究力を向上させ授業の質を高める ―科学研究費獲得に向けて―
日時：6月14日（水）13時10分～15時15分
内容：講演（外部講師）及び研究協議（本キャンパス教員）
参加状況：本学専任教職員の74.3%

c-2 相互授業参観

（令和5年度）

参観数：33件（年間、全学）
期間：前期6月～7月、後期11月～1月

c-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

令和5年度に実施された相互授業参観のうち、OGPIに推薦があったものは、前期が3件、後期が4件であった。FD委員による2次参観もなされたが、選出要件を踏まえて検討した結果、2023年度は該当者なし。

c-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

令和5年度は、中間授業アンケートは5月と11月、期末授業アンケートは7月と1月に実施。中間授業アンケートは各学期後半の授業で学生と授業担当者が結果を共有し、授業方法の改善に資した。期末授業アンケートは各学期の総括として学部・学年ごとに各設問の平均をHPへ公開し、次年度の授業改善への具体的・効果的指針となった。なお、年度末には、学生と専任教員が懇談の場を持ち、期末授業アンケートの結果を共有するとともに授業の具体的な改善要望について意見交換を行った。

c-5 FD委員会報告書

令和6年度4月に、令和5年度の活動報告書を発行し、学内ネットワーク上で公開した。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

d-1 FSD研修会

事後アンケートにおいて、教職員全体として、9割以上が「有意義だった」の回答が得られたことから、「科研費獲得のための申請書の興し方、共同研究を立ち上げる方法論やそれらの重要性」に対する理解を深められた研修会となった。同アンケートの感想・質問の自由記述についての回答を内容ごとにカテゴリー分けしたところ、以下の4点の学びや意見が見出された。

1. チームとして戦略的に科研費獲得に向けて動くことの意義
2. 研究活用の重要性、組織的なサポート（学内の協力体制）の重要性
3. 「現場」と「研究」の循環性、研究者としての社会的責任
4. 研究成果の教育への還元

学術研究の信頼性と公正性を担保し、本学の学術研究に対する社会からの信頼の確保及び公的研究費の適正な運営・管理を推進することがまず大学・短期大学の社会的責務として肝要である。科学研究費補助金「科研費」をはじめ、多様な研究資金源の開拓・獲得に向けた具体的支援あるいは取り組みとして、今年度の研修成果を学内で共有できた意義は大きかったと考える。科研費獲得に向けた組織的な戦略等の様々な取り組みの重要性が認識された。今回の研修会は、FD・SD共同開催ということで、研究を授業改善にどうつなげていくのかという視点を忘れてはならない、ということも確認できた。

d-2 相互授業参観

本年度の参観数は、昨年度（17件）よりも大幅に増加した。これは、FD委員会による働きかけが徐々に浸透し相互授業参観に対する教員の意識向上が大きな要因であろう。またOGPの選出の条件になったことも一要因であると思われる。今年度の相互授業参観の特徴は次の4点と考えられる。

- ①授業の目的・意義の学生への徹底をどうするか
- ②どのように学生の授業への意欲を高める工夫をどうするか
- ③学生の興味関心を高める教材、資料の準備をどうするか
- ④前時の振り返り、フィードバックの効果的な扱いをどうするか
- ⑤学生からの質問に対応する時間と内容の工夫をどうするか
- ⑥学生同士のコミュニティを深める工夫をどうするか

また、少数ではあるが、施設設備面での問題点を指摘したケースがあった。

これらの点から授業改善の方向性とあり方を考え合い、来年度の相互授業参観の充実につなげていきたい。

d-3 Ohka Good Practice制度（授業に係る評価の高い教育実践者を表彰する制度）

次年度へ向けた課題としては、認定要件の見直し、授業アンケート回答率の向上、相互授業参観数の向上、実施期間内における参観とレポートの提出が挙げられた。本学のFD活動としては比較的新しい取り組みであり、相互授業参観と往還して効果を期待したい活動である。

d-4 中間授業アンケート、期末授業アンケート

中間授業アンケートは各学期後半の授業で直接的に授業方法の改善に資することができた。期末授業アンケートは各設問の平均点を概観すると8割以上の学生がポジティブな回答をしていることから、学生が意欲的に学ぶ環境がほぼ整っていること、両アンケートは有機的に連携し、機能していることが推測される。課題としては、期末授業アンケートにおいて経年的に低迷している回答率を上げ、より実効性のある取組とすることが挙げられている。

d-5 FD委員会報告書

1年間のFD活動を振り返ることで、今後の活動への課題を可視化することができた。令和6年度第1回のFD委員会では、報告書をもとに、1年間の活動内容を次のとおり決定した。

- ① 外部講師によるFD研修会の開催と最新課題の共有
- ② 「PROG テスト」（保育学部）、社会人基礎能力測定（国際学部）の実施による課題抽出と授業改善への具体的展開
- ③ 各学部間における相互授業参観の実施とOGPの選出
- ④ 中間授業評価アンケートの実施
- ⑤ 期末授業評価アンケートの実施率の向上の取り組み
- ⑥ FD 関連出張（大学教育研究フォーラム）を通じた最新課題を報告・共有

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

毎学期末、履修者数5名以上の全開講科目を対象に実施。回答は本学学修支援システムにおいて学生、授業担当者全員で共有し、授業担当者は回答を閲覧の後、次学期授業への反映を目指し授業改善アンケートを提出する。

b 教員や学生への公開状況、方法等

本学学修支援システムにおいて、授業担当者及び履修者が授業アンケート回答および授業改善アンケートを閲覧できるよう整備している。また、2018年度以降の授業アンケート各項目平均値を学科学年ごとにまとめHPにて公開。経年比較により中長期的視野にたつ授業改善を試みる。集計結果を基にした授業実施状況の考察はFD委員会報告書に掲載し、今後の活動への課題を全学で共有し、授業改善のための取り組み材料としている。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項 該当なし

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

(5月1日現在の委員名簿も添付してください。委員に変更がある場合は、その内容と各区分を踏まえた委員構成であることを説明してください。併せて、別途委員名簿を変更内容が分かるよう加筆の上、提出してください。)

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

c 委員会の審議事項等

d その他

② 審議状況

a 審議した内容

記入例)

- ・ 地域との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容
- ・ 産業界との連携に関する〇〇の観点から教育課程に対する提案内容

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本学部は、「地域・国際社会に関する幅広い知識と語学力を生かしたコミュニケーション能力」および「多岐にわたるグローバルな問題を解決するための論理的・創造的な思考力と主体的・実践的な対応能力」を持った人材の養成を目的とする。設置初年度である本年度入学者の学生募集及び入学者選抜は、届出どおりのアドミッションポリシー及び選抜方法に従い適正に実施し、入学定員を充足することができた。

本年度（開設初年度）は、申請書に従い適正に遂行している。総括的な評価は、令和7年度以降となる。なお、本学は、教育研究水準の向上を図り、その設置目的及び社会的使命を達成するため、本学学則第2条に基づき、大学評価委員会を置く。委員会は、公益財団法人日本高等教育評価機構の基準項目に基づき、研究科、各学部・学科及び各種委員会、研究所、事務組織等において行われた自己点検・評価の結果を踏まえ、全学的視点に立って自己点検・評価を行う。国際学部の自己点検・評価においても密接に連携し、評価活動を遂行する。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・ 令和6年5月

b 公表方法

・ 大学ホームページ上に公開

③ 認証評価を受ける計画

・ 令和12年度に評価機関（公益財団法人日本高等教育評価機構）の評価を受ける予定で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和6年度）

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ 無]

《aで「有」の場合》

b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]

《aで公表「無」の場合》

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト上に公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

改正の理由 大学の目的変更に伴う改正（2024 年度以降入学生適用）

新 学 則	旧 学 則
(目 的) 第1条 <u>桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、信念ある人を育成することを教育理念として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、国際学部にあつては国際社会における人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。</u> (略) 第2条～第9条 (略) (入学志願者の資格) 第10条 <u>本学に入学志願できる者は、次の各号の一に該当する者でなければならない。</u> (略) 第11条～第51条 (略) 附 則 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和3年4月1日から施行する。 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和4年4月1日から施行する。 <u>1. この学則（届出による学部学科の設置に係る項目の変更並びに教育課程の変更、及び目的の変更及び入学志願者の資格の変更）は、令和6年4月1日から施行する。</u>	(目 的) 第1条 <u>桜花学園大学（以下「本学」という。）は、教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、学校法人桜花学園の設置目的である信念ある女性を育成することを基本目的として、広く知識を授け、高い教養と専門的能力、豊かな人間性をおねそなえた優れた人材を育成するとともに、保育学部にあつては教育学・保育学にかかわる学芸、国際学部にあつては国際社会における人文・社会科学の諸分野にかかわる学芸を教授研究し、深く真理を探究して新たな知見を創造し、その成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与することを目的とする。</u> (略) 第2条～第9条 (略) (入学志願者の資格) 第10条 <u>本学に入学志願できる者は、女子であつて、次の各号の一に該当する者でなければならない。</u> (略) 第11条～第51条 (略) 附 則 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和3年4月1日から施行する。 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和4年4月1日から施行する。 <u>1. この学則（届出による学部学科の設置に係る項目の変更並びに教育課程の変更）は、令和6年4月1日から施行する。</u>

桜花学園大学 新旧対照表（共通教育科目）
改正の理由 共学化に伴う「桜花学」の変更（2024年度以降入学生適用）
（別表第1）

新					
保育学部 保育学科					
区分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	ライフコース論	2		2単位以上選択必修
		ジェンダー論	2		
		自分と家族	2		
		芸術の世界	2		2単位以上選択必修
		文学の世界	2		
		心の探求	2		
		生き方の探求	2		2単位以上選択必修
		生活と経済	2		
		地域社会	2		
		人間と歴史	2		2単位以上選択必修
		異文化理解	2		
		日本の文化	2		
		国際関係論	2		2単位以上選択必修
		グローバル社会と宗教	2		
		環境の科学	2		
	基礎科目	食と生命の科学	2		2単位以上選択必修
		生き物の社会	2		
		スポーツ健康論	2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ	1		
		スポーツⅡ	1		
		統計学	2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法	2		
		情報社会論	2		
		コンピュータⅠ	1		
		コンピュータⅡ	1		
		(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法	2		
		海外研修A	2		
		海外研修B	4		
		基礎演習Ⅰ	1		
		基礎演習Ⅱ	1		
		エクステンション科目	6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区 分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

保育学部 国際教養こども学科

区分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	ライフコース論	2		2単位以上選択必修
		ジェンダー論	2		
		自分と家族	2		
		芸術の世界	2		2単位以上選択必修
		文学の世界	2		
		心の探求	2		
		生き方の探求	2		2単位以上選択必修
		生活と経済	2		
		地域社会	2		
		人間と歴史	2		2単位以上選択必修
		異文化理解	2		
		日本の文化	2		
		国際関係論	2		2単位以上選択必修
		グローバル社会と宗教	2		
		環境の科学	2		
	基礎科目	食と生命の科学	2		2単位以上選択必修
		生き物の社会	2		
		スポーツ健康論	2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ	1		
		スポーツⅡ	1		
		統計学	2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法	2		
		情報社会論	2		
		コンピュータⅠ	1		
		コンピュータⅡ	1		
		(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法	2		2単位以上選択必修
		海外研修A	2		
		海外研修B	4		
		基礎演習Ⅰ	1		
		基礎演習Ⅱ	1		
		エクステンション科目	6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区 分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

(別表第1)

旧					
保育学部 保育学科					
区分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	現代社会と女性	2		2単位以上選択必修
		女性とジェンダー	2		
		女性と家庭教育	2		
		芸術の世界	2		2単位以上選択必修
		文学の世界	2		
		心の探求	2		
		生き方の探求	2		2単位以上選択必修
		生活と経済	2		
		地域社会	2		
		人間と歴史	2		2単位以上選択必修
		異文化理解	2		
		日本の文化	2		
		国際関係論	2		2単位以上選択必修
		グローバル社会と宗教	2		
		環境の科学	2		
	基礎科目	食と生命の科学	2		2単位以上選択必修
		生き物の社会	2		
		スポーツ健康論	2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ	1		
		スポーツⅡ	1		
		統計学	2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法	2		
		情報社会論	2		
		コンピュータⅠ	1		
		コンピュータⅡ	1		
		(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法	2		
		海外研修A	2		
		海外研修B	4		
		基礎演習Ⅰ	1		
		基礎演習Ⅱ	1		
		エクステンション科目	6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区 分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

保育学部 国際教養こども学科

区分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	現代社会と女性	2		2単位以上選択必修
		女性とジェンダー	2		
		女性と家庭教育	2		
		芸術の世界	2		2単位以上選択必修
		文学の世界	2		
		心の探求	2		
		生き方の探求	2		2単位以上選択必修
		生活と経済	2		
		地域社会	2		
		人間と歴史	2		2単位以上選択必修
		異文化理解	2		
		日本の文化	2		
		国際関係論	2		2単位以上選択必修
		グローバル社会と宗教	2		
		環境の科学	2		
	基礎科目	食と生命の科学	2		2単位以上選択必修
		生き物の社会	2		
		スポーツ健康論	2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ	1		
		スポーツⅡ	1		
		統計学	2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法	2		
		情報社会論	2		
		コンピュータⅠ	1		
		コンピュータⅡ	1		
		(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法	2		2単位以上選択必修
		海外研修A	2		
		海外研修B	4		
		基礎演習Ⅰ	1		
		基礎演習Ⅱ	1		
		エクステンション科目	6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区 分	授業科目名	単位			備 考
		必修	選択	自由	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	ライフコース論		2		2単位以上選択必修
		ジェンダー論		2		
		自分と家族		2		2単位以上選択必修
		芸術の世界		2		
		文学の世界		2		
		心の探求		2		
		生き方の探求		2		2単位以上選択必修
		生活と経済		2		
		地域社会		2		
		人間と歴史		2		
		異文化理解		2		2単位以上選択必修
		日本の文化		2		
		国際関係論		2		
		グローバル社会と宗教		2		2単位以上選択必修
		環境の科学		2		
		食と生命の科学		2		
		生き物の社会		2		
	基礎科目	スポーツ健康論		2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ		1		
		スポーツⅡ		1		
		統計学		2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法		2		
		情報社会論		2		
		コンピュータⅠ	1			
		コンピュータⅡ	1			(略)
		(略)	(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法		2		
		海外研修A		2		
		海外研修B		4		1単位以上選択必修
		基礎演習Ⅰ	1			
		基礎演習Ⅱ	1			
	エクステンション科目			6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
専門教育科目		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

資格取得に関する課程（自由科目）

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
共通教育科目	教養科目	現代社会と女性		2		2単位以上選択必修
		女性とジェンダー		2		
		女性と家庭教育		2		2単位以上選択必修
		芸術の世界		2		
		文学の世界		2		
		心の探求		2		
		生き方の探求		2		2単位以上選択必修
		生活と経済		2		
		地域社会		2		
		人間と歴史		2		
		異文化理解		2		2単位以上選択必修
		日本の文化		2		
		国際関係論		2		
		グローバル社会と宗教		2		2単位以上選択必修
		環境の科学		2		
		食と生命の科学		2		
		生き物の社会		2		
	基礎科目	スポーツ健康論		2		1単位以上選択必修
		スポーツⅠ		1		
		スポーツⅡ		1		
		統計学		2		必修単位を除き2単位以上選択必修
		社会調査法		2		
		情報社会論		2		
		コンピュータⅠ	1			
		コンピュータⅡ	1			(略)
		(略)	(略)	(略)	(略)	
		日本国憲法		2		
		海外研修A		2		
		海外研修B		4		1単位以上選択必修
		基礎演習Ⅰ	1			
		基礎演習Ⅱ	1			
	エクステンション科目			6		

エクステンション科目については別に定める。

※ インターンシップ（海外）として取得できる単位は卒業までに

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
専門教育科目		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

資格取得に関する課程（自由科目）

区分		授業科目名	単位			備 考
			必修	選択	自由	
		(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

桜花学園大学 新旧対照表（共通教育科目）

改正の理由 共学化に伴う「桜花学」の変更（2024年度以降入学生適用）

新

・保育学部 保育学科
保育士資格に関する科目

区分	授業科目名	単 位		備 考
		必修	選択	
教養科目	ライフコース論		2	選択必修
	ジェンダー論		2	
	自分と家族		2	
	コンピュータⅠ	1		
	コンピュータⅡ	1		
	基礎演習Ⅰ	1		
	基礎演習Ⅱ	1		
	総合英語Ⅰ	1		
	総合英語Ⅱ	1		
	スポーツ健康論	2		
	スポーツⅠ		1	選択必修
	スポーツⅡ		1	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)

・保育学部 国際教養こども学科
保育士資格に関する科目

区分	授業科目名	単 位		備 考
		必修	選択	
教養科目	ライフコース論		2	選択必修
	ジェンダー論		2	
	自分と家族		2	
	コンピュータⅠ	1		
	コンピュータⅡ	1		
	基礎演習Ⅰ	1		
	基礎演習Ⅱ	1		
	総合英語Ⅰ	1		
	総合英語Ⅱ	1		
	スポーツ健康論	2		
	スポーツⅠ		1	選択必修
	スポーツⅡ		1	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)

旧

・保育学部 保育学科
保育士資格に関する科目

区分	授業科目名	単 位		備 考
		必修	選択	
教養科目	現代社会と女性		2	選択必修
	女性とジェンダー		2	
	女性と家庭教育		2	
	コンピュータⅠ	1		
	コンピュータⅡ	1		
	基礎演習Ⅰ	1		
	基礎演習Ⅱ	1		
	総合英語Ⅰ	1		
	総合英語Ⅱ	1		
	スポーツ健康論	2		
	スポーツⅠ		1	選択必修
	スポーツⅡ		1	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)

・保育学部 国際教養こども学科
保育士資格に関する科目

区分	授業科目名	単 位		備 考
		必修	選択	
教養科目	現代社会と女性		2	選択必修
	女性とジェンダー		2	
	女性と家庭教育		2	
	コンピュータⅠ	1		
	コンピュータⅡ	1		
	基礎演習Ⅰ	1		
	基礎演習Ⅱ	1		
	総合英語Ⅰ	1		
	総合英語Ⅱ	1		
	スポーツ健康論	2		
	スポーツⅠ		1	選択必修
	スポーツⅡ		1	
専門教育科目	(略)	(略)	(略)	(略)

桜花学園大学 学則 新旧対照表

改正の理由 入学手続書類の変更及び編入学の定義をわかりやすくするため（令和6（2024）年度以降適用）

新 学 則	旧 学 則
第1条～第12条 (略) (入学手続及び入学許可) 第13条 合格した者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書<u>その他本学所定の書類</u>に入学金を添えて提出しなければならない。 2～3 (略) (編入学) 第15条 次の各号の一に該当する者で本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は3年次に入学を許可することができる。 (1) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者 (2) 大学を卒業した者又は<u>他の大学</u>に2年以上在籍し、62単位以上を修得した者 (3) ～ (4) (略) 2 (略) 第16条～第53条 (略) 附 則 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和3年4月1日から施行する。 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和4年4月1日から施行する。 <u>1. この学則（届出による学部学科の設置に係る項目の変更並びに教育課程の変更、入学手続及び入学許可、編入学の変更、及び目的の変更）は、令和6年4月1日から施行する。</u>	第1条～第12条 (略) (入学手続及び入学許可) 第13条 合格した者は、所定の期日までに保証人連署の誓約書<u>及び住民票</u>に入学金を添えて提出しなければならない。 2～3 (略) (編入学) 第15条 次の各号の一に該当する者で本学に編入学を志願する者があるときは、選考の上、学長は3年次に入学を許可することができる。 (1) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者 (2) 大学を卒業した者又は<u>大学</u>に2年以上在籍し、62単位以上を修得した者 (3) ～ (4) (略) 2 (略) 第16条～第53条 (略) 附 則 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和3年4月1日から施行する。 1. この学則（教育課程及び納付金の変更）は、令和4年4月1日から施行する。 <u>1. この学則（届出による学部学科の設置に係る項目の変更並びに教育課程の変更、及び目的の変更）は、令和6年4月1日から施行する。</u>

桜花学園大学 新旧対照表（国際学部 国際学科）

改正の理由 免許法施行規則の改正に伴う名称の変更（2024年度以降入学生適用）

新学則

（別表第1）

保育学部・保育学科

（略）

国際学部 国際学科

（略）

資格取得に関する課程（自由科目）

区分	授業科目名	単位			備考
		必修	選択	自由	
自由科目	(略)				
	特別支援基礎論			1	
	<u>教育方法・技術論 (ICT活用含む)</u>			2	
	教育相談			2	
	(略)				

附則 この学則は令和6年4月1日より施行する。

旧学則

（別表第1）

保育学部・保育学科

（略）

国際学部 国際学科

（略）

資格取得に関する課程（自由科目）

区分	授業科目名	単位			備考
		必修	選択	自由	
自由科目	(略)				
	特別支援基礎論			1	
	<u>教育方法・技術論</u>			2	
	教育相談			2	
	(略)				

桜花学園大学 新旧対照表（国際学部 国際学科）
改正の理由 免許法施行規則の改正に伴う名称の変更（2024年度以降入学生適用）

新学則

（別表第2）
・保育学部 保育学科
幼稚園教諭一種免許

（略）

・国際学部 国際学科
中学校教諭一種免許（英語）、高等学校教諭一種免許（英語）

科目区分		授業科目名		単位		備考
				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目		(略)				
教育の基礎的理解に関する科目		(略)				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		(略)				
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2			
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術	教育方法・技術論（ICT活用含む）	2			
	情報通信技術を活用した生徒指導、教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
		(略)				
教育実践に関する科目		(略)				
大学が独自に設定する科目		(略)				

（略）

附則 この学則は令和6年4月1日より施行する。

旧学則

（別表第2）
・保育学部 保育学科
幼稚園教諭一種免許

（略）

・国際学部 国際学科
中学校教諭一種免許（英語）、高等学校教諭一種免許（英語）

科目区分		授業科目名		単位		備考
				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目		(略)				
教育の基礎的理解に関する科目		(略)				
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		(略)				
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2			
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術	教育方法・技術論	2			
	情報通信技術を活用した生徒指導、教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法	生徒・進路指導論	2			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
		(略)				
教育実践に関する科目		(略)				
大学が独自に設定する科目		(略)				

（略）

新学則						
(別表第2)						
国際学部 国際学科 中学校教諭一種免許（英語）、高等学校教諭一種免許（英語）						
科 目 区 分			授 業 科 目 名	単 位 必修	選 択	備 考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	(略)	(略)	(略)	(略)
		英語文学				
		英語コミュニケーション				
		異文化理解				
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）					
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		(略)	(略)		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2		(略)
	総合的な学習（探究）の時間の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術		教育方法・技術論	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実習			(略)	(略)		(略)
教職実践演習			(略)	(略)		
大学が独自に設定する科目			(略)		(略)	(略)

備 考

- 1 中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、教育職員免許法に掲げる科目のほか、同法施行規則の定めるところにより下記の科目を履修し所定の単位を修得しなければならない。

科 目 区 分	授 業 科 目 名	単 位		備 考
		必修	選択	
日本国憲法	(略)	(略)	(略)	(略)
体育				
外国語コミュニケーション				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作				

- 2 中学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、小中免許特例法の定めるところにより「介護等の体験」を行わなければならない。

旧学則

(別表第2)

学芸学部 英語学科
中学校教諭一種免許（英語）、高等学校教諭一種免許（英語）

科 目 区 分			授 業 科 目 名	単 位 必修	選 択	備 考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	(略)	(略)	(略)	(略)
		英語文学				
		英語コミュニケーション				
		異文化理解				
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）					
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		(略)	(略)		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）					
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）					
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程					
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解					
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）					
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法		道徳教育の指導法	2		(略)
	総合的な学習の時間の指導法		特別活動・総合的な学習の時間の指導法	2		
	特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術		教育方法・技術論	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	生徒指導の理論及び方法		生徒・進路指導論	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2		
教育実習			(略)	(略)		(略)
教職実践演習			(略)	(略)		
大学が独自に設定する科目			(略)		(略)	(略)

備 考

- 1 中学校教諭1種免許状及び高等学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、教育職員免許法に掲げる科目のほか、同法施行規則の定めるところにより下記の科目を履修し所定の単位を修得しなければならない。

科 目 区 分	授 業 科 目 名	単 位		備 考
		必修	選択	
日本国憲法	(略)	(略)	(略)	(略)
体育				
外国語コミュニケーション				
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作				

- 2 中学校教諭1種免許状の授与を受けようとする者は、小中免許特例法の定めるところにより「介護等の体験」を行わなければならない。

桜花学園大学 編入学規程 新旧対照表

改正の理由 定義をわかりやすくするため（令和 6（2024）年度以降適用）

新	旧
第 1 条（略） （定 義） 第 2 条 （1） （略） （2） 大学を卒業した者又は<u>他の大学に 2 年以上在籍し、</u> 6 2 単位以上修得した者 第 3 条～第 8 条 （略） 附 則 この規程は、平成 1 0 年 4 月 1 日から施行する。 この改定規程は、平成 1 4 年度入学生から適用する。 この改定規程は、平成 1 7 年 4 月 1 日から施行する。 この規程（定義及び納付金）は、平成 1 7 年 1 0 月 1 日から施行し、 平成 1 8 年度入学者から適用する。 この改定規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。 <u>この改定規程は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。</u>	第 1 条（略） （定 義） 第 2 条 （1） （略） （2） 大学を卒業した者又は<u>大学に 2 年以上在籍し、</u> 6 2 単位以上修得した者 第 3 条～第 8 条 （略） 附 則 この規程は、平成 1 0 年 4 月 1 日から施行する。 この改定規程は、平成 1 4 年度入学生から適用する。 この改定規程は、平成 1 7 年 4 月 1 日から施行する。 この規程（定義及び納付金）は、平成 1 7 年 1 0 月 1 日から施行し、 平成 1 8 年度入学者から適用する。 この改定規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

桜花学園大学国際学部 GPA 制度および履修登録単位数の上限制度に関する要項

(目的)

第1条 この要項は、桜花学園大学履修規程（第17条～18条）に従い、桜花学園大学国際学部（以下「本学部」）におけるグレードポイント（以下「GPA」という。）に基づく履修登録単位数上限制度について必要な事項を定め、学生の学習意欲を高めるとともに、厳格な成績評価と学生支援に資することを目的とする。

(定義)

第2条 「GPA」とは、各授業科目5段階の成績評価に対応して4～0のグレードポイント（以下「GP」という。）を付与して算出する1単位当たりのGP平均値をいう。

2 GPA対象授業科目は、次の各号に掲げる授業科目とする。

(1) 100点を満点として成績評価されるすべての授業科目

(2) 本学部在学中に、他の学部及び大学において履修した授業科目又は外国の大学（短期大学を含む。）において学修した成果・履修した授業科目であって、本学における授業科目の履修により修得したものとみなされた授業科目であり、かつ第1号の要件を満たす授業科目

3 成績評価が点数によらない以下の科目及び未入力又は保留の授業科目については、GPAの対象から除く。

(1) 合格か不合格かだけを判定する授業科目

(2) 編入学又は転入学した際の単位認定科目

(3) 本学入学前に修得した単位認定科目

(4) 他大学等との単位互換等で修得した科目

(5) 第5条に定める履修登録取消期間中に取り消した科目

(6) 自由科目

(7) 必修の研修科目を除く学外実習・研修科目

(8) 未入力又は保留の授業

(9)資格・検定取得及び受賞により単位認定された科目

4 教育実習、教育実習指導、教職実践演習の履修を希望する場合においての自由科目の取り扱いについては、本学部教職免許取得に関わる教育実習等の履修に関する規則に従う。

(成績評価および GP)

第3条 国際学部の定める成績評価並びに GP は、次のとおりとする。

成績	GP
秀 (AA)	4
優 (A)	3
良 (B)	2
可 (C)	1
不可 (F)	0
取消 (W)	GP 対象外

(GPA の種類及び計算方法)

第4条 GPA は、当該学期に履修した第2条第2項各号に定める GPA 対象科目について、学期 GPA 及び通算 GPA に区分し、各区分の定める方法により計算するものとし、計算値は小数点以下第2位を四捨五入して表記するものとする。

- (1) 学期 GPA は、当該学期の授業科目ごとに得た GP に当該授業科目の単位数を乗じる計算を、当該学期に成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を当該学期に成績評価を受けた授業科目単位数の合計で除して算出する。

学期 GPA = (当該授業科目の GP × 当該学期に履修登録した授業科目の単位数) の合計 / 当該学期の成績評価を受けた授業科目の単位数の合計

- (2) 通算 GPA は、入学時から当該学期までの授業科目ごとに得た GP に、当該授業科目の単位数を乗じる計算を、入学時から当該期までに成績評価を受けた授業科目分行い、その合計を入学時からの当該学期までに成績評価を受けた授業科目の単位数の合計で除して算出する。

通算 GPA = (入学時からの当該授業科目の GP × 履修登録した授業科目の単位数) の合計 / 入学時から成績評価を受けた授業科目の単位数の合計

(履修の取り消し)

第 5 条 一度履修登録した科目であっても、受講目的が達成されないなどの理由により履修を取り消すことができる。

- 2 履修の取り消しは、別に定める履修取り消し期間に行うことができる。ただし、履修取り消し期間内に手続を行わない場合は、当初申請した履修科目が成績評価の対象となる。
- 3 前項の規定にかかわらず、病気・事故等やむを得ない事情による場合は、履修取り消し期間以降においても履修を取り消すことができる。

(履修登録単位数の上限)

第 6 条 本学部の学生が、各学期に履修登録できる本学部の単位数は、総合教養科目と専門科目の合計単位数で、標準履修単位数上限を 20 単位とし、前学期の GPA に基づいて、次のとおりとする。

- (1) 前学期の学期 GPA が 3.5 上の場合の上限単位数は 24
- (2) 前学期の学期 GPA が 3.0～3.4 の場合の上限単位数は 22
- (3) 前学期の学期 GPA が 2.5～2.9 の場合の上限単位数は 20
- (4) 前学期の学期 GPA が 2.0～2.4 の場合の上限単位数は 18
- (5) 前学期の学期 GPA が 2.0 未満の場合の上限単位数は 16
- (6) 新入学生、編入学生、再入学生の上限単位数は 20

- 2 自由科目（教職科目）、学外実習科目、集中講義科目、**資格・検定取得及び受賞によって単位認定を申請する科目**は履修登録上限制限に含まない。

(再履修等における授業科目の取扱い)

第 7 条 不合格（F）と評価され、後に再履修等によって合格となった場合は、新たな学習成績をその科目の成績とする。

(GPA の開示)

第 8 条 GPA の学生及び保護者への開示は、学期 GPA 及び通算 GPA とする。

(GPA データの提供及び活用)

第 9 条 本学職員が、教育活動の改善等を目的として行なう調査研究等において GPA データの提供を希望する場合は、別紙申請書により、本学部長に申請するものとする。

- 2 本学部長は、前項の申請理由が適当であると判断したときは、GPA に係る各種資料を提供するものとする。

(経過措置)

第 10 条 平成 24 年 3 月 31 日において現に在籍する者の履修登録単位数の上限の取扱いについては、当該年次在籍者に適用されている履修登録単位数の上限制度を適用する。

附記

この要項は、平成 24 年 4 月 1 日から実施する。

この要項は、平成 29 年 4 月 1 日から実施する。平成 28 年 4 月入学者から適用する。

この改定規程(学部名の変更)は、令和6年4月1日から施行する。なお、学芸学部**に在籍する学生については従前の要項による。**

桜花学園大学 F D 委員会規程

(設 置)

- 第 1 条 桜花学園大学学則第 3 条の規定に基づき、ファカルティ・ディベロップメント (Faculty Development 「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究」をいい、以下「F D」という) を実施するため、桜花学園大学 F D 委員会 (以下「委員会」という。) を置く。

(所 掌)

- 第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる事項を取り扱う。
- (1) F D のための基本方針の策定に関する事項
 - (2) F D のための研修会等の開催に関する事項
 - (3) その他 F D に関する事項
 - (4) 1) ～3) について自己点検・評価を行い、定期的に大学評価委員会へ報告する。

(構 成)

- 第 3 条 委員会の構成は、次のとおりとする。
- (1) 構成は、教務部長、各学科より選出されたそれぞれ 1 名もしくは 2 名の委員及び教務課長とする。
 - (2) 委員長は、委員の互選により選出するものとする。

(会 議)

- 第 4 条 委員会の会議は、次のとおりとする。
- (1) 会議は、委員長が招集し、その議長となる。
 - (2) 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。
 - (3) 会議の議決は、委員の 3 分の 2 以上の賛成による。
 - (4) 委員長は、委員の半数以上または教授会から会議の開催を求められた場合、会議を開催しなければならない。
 - (5) 委員会が必要と認める場合は、委員以外の教職員に会議への出席を求めることができる。

(事 務)

- 第 5 条 委員会の事務は、学務部が行う。

(制 定)

第 6 条 委員会は、この規程に定めるものの他、必要に応じて規則を定めることができる。

(改 廃)

第 7 条 この規程の改廃は、教授会の議を経て、学長が行う。

附 則

この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

桜花学園大学 国際学部 F D 委員会規程

(準 拠)

第 1 条 この規程は、桜花学園大学国際学部教授会規程第 11 条に基づき、F D 委員会（以下「委員会」という。）に関する必要な事項について定める。

(目 的)

第 2 条 委員会は、国際学部の教職員の教育研究、職務能力の向上に関する事項について審議し、国際学部の F D 活動に関する計画を策定し、教育研究の発展に資することを目的とする。

(構 成)

第 3 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 構成は、学科より選出されたそれぞれ 1 名もしくは 2 名の委員、事務局により選出される職員 1 名とする。
- (2) 委員長は委員の互選により選出するものとする。

(所掌事項)

第 4 条 委員会は、次の事項を審議し具体化する。

- (1) 授業評価に関する事項
 - (2) 授業の公開・交流に関する事項
 - (3) 教職員の研修に関する事項
 - (4) その他 F D 活動に関する事項
- (5) 1) ～4) について自己点検・評価を行い、定期的に大学評価委員会へ報告する。

(会 議)

第 5 条 会議は、委員長が招集し議長となる。

- 2 会議は、委員の 3 分の 2 以上の出席により成立する。
- 3 会議の議決は、出席委員の 3 分の 2 以上の賛成による。
- 4 委員長は、委員の半数以上または教授会から会議の開催を求められた場合、会議を開催しなければならない。
- 5 委員長は、委員会が必要と認める場合は、委員以外の教職員に会議への出席を求めることができる。

(報 告)

第 6 条 委員長は、審議の結果を教授会に報告しなければならない。

(事 務)

第 7 条 委員会の事務は、教務課が行う。

(規程の制定)

第 8 条 委員会はこの規程に定めるものの他、必要に応じて規程を定めることができる。

(改 廃)

第 9 条 この規程の改廃は、国際学部教授会の議を経て行う。

附 則

この規則は、平成 21 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

この規程は、令和 5 年 4 月 1 日から施行する。

この改定規程（学部名の変更）は、令和 6 年 4 月 1 日から施行する。なお、令和 6 年 3 月 31 日に学芸学部 に在籍する学生が卒業するまでは、当該学生に係る事項についても取り扱うものとする。